

丹鶴叢書

萬代和歌集 十三十四

和書門類		二九三六四號	一五四冊
		一〇八函	一四架

內閣文庫		和書類	二九三六四號	一五四冊	二六函
------	--	-----	--------	------	-----

內閣文庫	
番號	和 29364
冊數	154(35)
函號	216 2



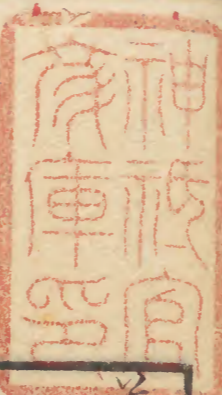
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM Kodak





続後人よりせらる

新千人の終り



萬代和歌集卷第十三

内一二九三九號



続後撰卷五

ハ続後

ト同上

仁和寺製

寛平法親

新千載恋一

人まほしのちをばくさるおとむのたのまありけり
延喜の序時よきまのまをうへ入る侍る

女藏人三條

玉葉恋五

ら玉

もたう同上

牧ちうぬ我もよしのの原よりあまもつねもけりけり
延喜法親

続後拾遺恋四詞各

ホもよゆの徳後拾

丹鳥農書

玉子のりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

後 堀川院 院主
まきく

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

同恋五

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

後撰恋一

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

恨 為 院主

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

同恋五

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

新拾 光明峯寺入
まきく

新拾遺恋四

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

一本 新拾

従二位家隆

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

題不知 友判

統十載恋四

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

ナク一本

大江嘉三

新十載恋四

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

と新十

同上

よき

後撰恋四

くまのりる女つた
おのこ人の入るゆ
まはまきく二日斗
まきく

あま 院主

院主 志のりる

丹波書

兼院 （抄） 兼院 （抄）

源重光 （抄） 源重光 （抄）

新十載 （抄） 新十載 （抄）

後 （抄） 後 （抄）

為徳大位

統後撰恋五 （抄） 統後撰恋五 （抄）

新十載 （抄） 新十載 （抄）

中納言之家

身 （抄） 身 （抄）

為大納言之家

位 （抄） 位 （抄）

二位家隆

平 （抄） 平 （抄）

平經正

位 （抄） 位 （抄）

位 （抄） 位 （抄）

玉葉恋三題不知 （抄） 玉葉恋三題不知 （抄）

玉つらうらな女の
あつしつらうらな
のつらうらな女の
つらうらな

徳古 くまひら女
のつらうらな
つらうらな
つらうらな
つらうらな
忠義云

玉兼恋五

玉兼恋五
後之兼内大臣
太宰大貳重家
本院侍従

徳古今恋四

徳古今恋四
身しつらうらな

玉兼恋五

玉兼恋五
身しつらうらな

徳後
三條院女威人光近
同
まのつらうらな

同恋五 題不知

お換

徳後撰恋五

千五百番歌合のま

同恋五

徳後撰恋五

徳拾遺恋五

徳拾遺恋五

縁起

丹波書

新後拾遺恋五題不知

藤原為氏御書

女御御書

基俊

統後撰恋五題不知

藤原為氏御書

待賢門院御書

藤原為氏御書

藤原為氏御書

和名式部

玉兼恋五

藤原為氏御書

玉
あまの
あまの
あまの

統古
後京極拾遺
恋五

統後拾遺恋四

藤原為氏御書

一本
統後拾

統古今恋四

藤原為氏御書

統後撰恋五

藤原為氏御書

丹波最書

久恋ふ

上由後院少事

後撰恋二

~~~~~

~~~~~

法橋頭昭

後古今恋五

~~~~~

藤原親成

~~~~~

藤原法師

~~~~~

西行法師

~~~~~

後古今恋五

~~~~~

同恋五

~~~~~

小槻季継

~~~~~

~~~~~

和歌式部

後撰撰恋五

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

後撰
あしんよちかきしんれ
しんたのらうまき
むていんくまき
とまきしんよつら
ー

百三ノ六中ノ一 般高ノ院大輔

続後撰恋三
つ続後

たのめりていふ人あはれとていふは

まゝいへりし 土佐ノ院伯耆

くさるる心もあはれとていふは

かみ成助

あはれとていふ人あはれとていふは

法性寺ノ道為ノ家ノ名ノ恋と

藤原ノ名ノ恋

しるす人あはれとていふは

清輔ノ名ノ恋

万

源師光

あはれとていふ人あはれとていふは

恋と 衣笠ノ内大臣

あはれとていふ人あはれとていふは

うらみとていふ人あはれとていふは

皇太后宮方左後成

あはれとていふ人あはれとていふは

あはれとていふ人あはれとていふは

あはれとていふ人あはれとていふは

待賢ノ院左衛門傳

右一本

続古今恋五
つ続今

まのあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも
清信かみちかのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

清人志

続後撰恋三式卿教慶親王家大和

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも
一本続後

あまのいづれも

清信

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

或乾院法画

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

入道お按政家村二十

続後拾 光明略之左
お按政家三十一
のり

山階入皇太后

権大納言実隆

続後拾遺恋四

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

堀河院法画時勢

二條太皇太后宅按保

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

権中納言教隆

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも
一本

九条右大臣

あまのいづれもあまのいづれもあまのいづれもあまのいづれも
続十載恋四

丹鳥叢書

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

玉葉恋四

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

秋恋

風雅恋四

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

後二位家隆

風 恋のうらみの中

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

たいららら
かきつばたのしほのうらみ

後撰恋二

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

後二位家隆

同恋四

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

中納言完頼

かきつばたのしほのうらみ
かきつばたのしほのうらみ

玉葉恋四

玉 杖のうらみの中

同 恋のうらみの中

後 恋のうらみの中

物心車... (vertical text)

徳後拾遺雜中

古くは... (vertical text)

題不知

和名式部

たの... (vertical text)

仁知清表

後ら... (vertical text)

清少納言

い... (vertical text)

い... (vertical text)

玉... (vertical text)

い... (vertical text)

重之女

お... (vertical text)

堀河院... (vertical text)

花園... (vertical text)

い... (vertical text)

甲斐

い... (vertical text)

い... (vertical text)

周防内侍

新統古今恋五 四糸官甲斐

丹波新書

延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製

延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製
 延喜法皇御製

徳吉今恋四題不知

徳千載恋四題不知

丹波書

建保四年庚申

後鳥羽院書

此書は... 抄り... の中... 抄り...

... 抄り...

入道書抄改た

... 抄り...

... 抄り...

藤原信実

... 抄り...

日吉社

流古

流古今恋五

祝部成茂

... 抄り...

... 抄り...

後頼朝書

... 抄り...

鳥羽... 期^本以遠約...

子... 抄り...

... 抄り...

六帖題

信実

于鳥書

まのまぢあしひのけしほふこゝろとてはなほさるる
海路恋と 若水

あふあふその海へ船をこゝろとてはなほさるる
後平極按家六百書ふたふ

前大納言兼宗

我はあまのこゝろとてはなほさるる
中納言長方

後とてはなほさるる
六條右大臣一本家

いふはなほさるる
万

金人

金葉恋上

七金

藤原惟親

鳥のけふまはさ波のこゝろとてはなほさるる
あし海人恋と 法印成清

あまのちりきりめつとてはなほさるる
恋のこゝろとてはなほさるる
あまのちりきりめつとてはなほさるる

いふはなほさるる
入道極按家恋十書ふたふ網恋と

氏祇の典侍

志のあまのあまのこゝろとてはなほさるる
あまのちりきりめつとてはなほさるる

あまのちりきりめつとてはなほさるる
あまのちりきりめつとてはなほさるる

後拾遺恋四

あまのちりきりめつとてはなほさるる

あまのちりきりめつとてはなほさるる

後拾 光明寺入道
後堀河院民御無侍

後 堀河院院女
大納言もあまのちりきりめつとてはなほさるる

丹鶴齋書

徳後撰恋一
あつらふらんものハ
あつらふらんもの
由上
京極前実白家肥後

徳後撰恋一

子徳後

うけもあはせの舟のつらふらんもの
中納言後かた家よき恋すらんもの

舞系道経

石ころつらふらんもの

恋恋と
中納言実家

徳千載恋五

かたあつらふらんもの
洞院掾あつらふらんもの

徳系長教書

徳系長教書

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

徳後撰恋一

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

徳系長教書

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

徳後撰恋五
後堀河院民卿典侍

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

あつらふらんもの
あつらふらんもの

毛馬法親王

まのほのちりりきさきいひあはれ我ふもす
しるし

徳後拾遺志四 女御徽子女王

齋宮女侍

あまのけしきさかきほのほのきよきよ
あまのけしき

源吉

あまのけしきさかきほのほのきよきよ
あまのけしき

二條院侍時経

刑部卿

あまのけしきさかきほのほのきよきよ
あまのけしき

徳吉 宝治二年百三

藤原隆祐

徳吉今恋五

あまのけしきさかきほのほのきよきよ
あまのけしき

柱大納言実成

徳平載雜中

あまのけしきさかきほのほのきよきよ
あまのけしき

中納言頼資

あまのけしきさかきほのほのきよきよ
あまのけしき

前中納言定家

徳俊 建保二年丙午
家三

徳平 大政のち大納言
久しき
あまのけしき

子鳥叢書

徳後撰卷四

しむのささの橋の名もつゝくさくある袖の海ふ
まへーくす 勝余法使

終なきささのたのむたのささのくさくささのささ

西り法師

まほのささのささのささのささのささのささのささ

久あささよ 皇太后あたま後成

くささのささのささのささのささのささのささのささ

入ささの接政内大臣のすささ

後二位家隆

ささのささのささのささのささのささのささのささ

徳千 光明峯寺入る

徳千載神

万

徳千 皇治百

宗の鳥出と

承和の院小宰相

まほの徳のささのささのささのささのささのささのささ

るささのささのささのささのささのささのささのささ

藤原行家親也

徳千載卷四

しむの徳のささのささのささのささのささのささのささ

後凉極接政家六百萬合

法橋顕昭

くささのささのささのささのささのささのささのささ

意のささと 法承耀清

くささのささのささのささのささのささのささのささ

丹鶴齋書

まゝいーらす 好た

あつてふみ流の中たたえよる我まの村のまゝ
さかて親をえらぬのまふつ

まゝいーらす

まゝいーらすの村まゝいーらすのまふつ

會徒十 遇不逢之のいーらす 入まを改む大也

徒十載恋四 光明峯寺入道前抄政元六日

たのまゝいーらすのまふつ

おちーらす 従二位家隆

まゝいーらすのまふつ

題すらす 和泉式部

続後撰恋五

たのまゝいーらすのまふつ

大納言胡光

まゝいーらすのまふつ

まゝいーらすのまふつ

和泉式部

まゝいーらすのまふつ

十まゝいーらすのまふつ

まゝいーらすのまふつ

まゝいーらすのまふつ

まゝいーらすのまふつ

丹鳥叢書

建保序表

統後撰卷五題不知

此の書は建保の御時
洞院按政家玉後一本の御時
西園寺大納言前一本 新後於

新後拾遺卷四

後平賴朝の御時
中納言定家

玉葉卷二

被志志
藤原隆祐

玉葉卷二

入道按政秋之十
少将内侍

玉葉卷四

杜因の御時
中納言院按察

統千載卷四

右大納言
中納言資家

丹鳥長書

玉 光明寺入道
後深草院少将内侍

御書
御書
御書

馬内侍

御書
御書

御書

御書

題一
小御

御書

玉葉恋五

宣仁門院一條

御書
御書

参議資季

御書
御書

御書

御書
御書

御書

御書
御書

御書

流徒
フ
フ

同人

流古
恨

同
恋

風
あ
あ

平子

弁乳母

ハ
ハ

持大納言実権

式乾門院内

大納言

和名式部

漢名

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

流徒

同人

流古

同恋

新拾遺恋五

風

丹鳥景書



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

萬代和歌集卷第十四

雜歌一

春はも〜免のすけぢ

花山院傳製

あゝ王のまのちめふあゝぬ末ねむるはるはる我あゝん

玉葉雜一題不知

右大主の時のふさう

後法皇入道左大臣

あらむの〜いふこそいささかもささくさくは海かいらん

祐子内親王家歌合下

式部

子鳥集書

まゝとて花の歌とてとけあはれ申すべしとてや  
河院掎政家百とて一歌をと

前太政大臣

まゝとて花の歌とてとけあはれ申すべしとてや  
建保内表歌合よ江上とて

従二位家隆

花はひの歌のしとてけりまのまゝとてや  
海をきとて

清輔朝臣

花はひの歌のしとてけりまのまゝとてや  
海士の釣舟

藤原秀経

院拾遺雜春  
中 院拾

おののほのまゝとてとけあはれ申すべしとてや  
春まゝとてとけあはれ申すべしとてや  
奏し侍る

信教由性

春まゝとてとけあはれ申すべしとてや  
まゝとてとけあはれ申すべしとてや

よとてとけあはれ申すべしとてや

まゝとてとけあはれ申すべしとてや  
まゝとてとけあはれ申すべしとてや

持家使る任

まゝとてとけあはれ申すべしとてや  
まゝとてとけあはれ申すべしとてや



玉葉雜一

くみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

まの歌の中よ 之品親之 雅也

はよはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

按家仕る任

まの田を耕もかへしとてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

赤海染

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

朱雀院中村のあなまのいふくみりてはるる

くみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

一条命婦

玉葉雜一

玉葉雜一

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

中院入道右大臣の家合

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

暁妻のいとこ 源具親親王

まのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

有る歌をまのいふくみりてはるるのたふらふはまのいふくみりてはるる

藤原光俊親王

院後 春の中よ 如願法師

院後撰春上

第一本

信本

丹鳥書

もろくちやうとていふにせむるはれはるのちよ  
をのちの中ふひていふに買子内款を

つらふく入るる有極のいふ<sup>七十</sup>あつれんちるまの  
寛喜女侍入内厚風

あ大改ちち

はひむあみのけ紙をたていふにひまの侍人

たのちひ

つらふく入るる有極のいふ<sup>七十</sup>あつれんちるまの

あ大改ちち

はひむあみのけ紙をたていふにひまの侍人

年之女

つらふく入るる有極のいふ<sup>七十</sup>あつれんちるまの

あ大改ちち

はひむあみのけ紙をたていふにひまの侍人

九条<sup>十レ徳吉</sup>内大<sup>基 徳吉</sup>

つらふく入るる有極のいふ<sup>七十</sup>あつれんちるまの

兼久三年内<sup>二月 諸本</sup>衣

あ大改ちち

はひむあみのけ紙をたていふにひまの侍人

文治女侍入内厚風

子鶴養書

三條入道大主

おもしろくもは少弱のあはれなきはたかむるおのほは  
花と侍らむと 権位正亮遍

いづれ花もよももその本いづれ花もよももいづれ花もよもも

三條入道親王 敦平 世とせむとて園塔もいづ

侍らむとていづれ花もよももいづれ花もよもも

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも

法皇入道お掎政大主

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも  
中務入道親王 具平

統後建曆二年六月  
の春にゆきし侍り  
ゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも

建保三年二月大内のみと侍らむとて

後鳥羽院法皇

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも

後鳥羽院お掎政のよももいづれ花もよもも

式子内親王

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも

後鳥羽院お掎政大主

いづれ花もよももいづれ花もよももいづれ花もよもも

花とよもも侍らむ 保正良因

同後鳥羽院お掎政大主  
殿ゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき

統後撰春中

統後

同春中

同春中

後鳥羽院書

むねをさかす人のまをくくあふりさちるまのい風  
僧正の意

ねとくくく物ら路のるる存梅神むるる  
基俊

いふまのいひのさかすあはれあはれあはれあはれ  
花あつたさけふ信正遍照院のさかす  
さくかかかか同上

あはれさかすふれる梅むるさむしりかかかか  
津も團基

あはれさかすふれる梅むるさむしりかかかか  
三玉中さかすの内に

徳古今哀

ねた

なまのさかすあはれあはれあはれあはれあはれ  
春情あ花さかす

源三村おせ

さかすあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
さかすあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

津も團基

梅さかすあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
梅さかすあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

梅さかすあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
梅さかすあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

平信敏

丹鳥集書

授大僧都

...  
...  
...

統千 春のこの中ふ 統千載春下

の譜本統千

周中花と...と 権位正六位

...  
...  
...

仁...  
...  
...

...  
...

統後 春のこの中ふ

統後撰春中

...  
...  
...

統後同

...  
...

後徳大寺

...  
...

...  
...  
...

統拾 春のこの中ふ

統拾 春のこの中ふ



二十号

八條院

玉葉雜一  
花とさくらんぼのさくらと梅とよきつらふはけり

花のたよ

沈並法

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

西川法

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

尚書

清輔

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

続古今雜上

花歌

藤原資隆

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

藤原敦家

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

座主

信正仁

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

堀河右大臣

おもしろき花のさくらと梅とよきつらふはけり

後鳥羽院

玉氏... 玉葉雜一

後立極授太政大臣

志をたしめしむるの谷風よ花のさきとまのぬくまを

花のおお中よ 徳倉右大臣

春風の機ゆきかきあきよのぬくまをさきとまのぬくまを

按多伎三通の家十きよなるを

法橋頭昭

こころみよぬのさきとまのぬくまをさきとまのぬくまを

結糸經のおきよ 祝歌成書

七つねほもふもあやまらんとしむるをさきとまのぬくまを

を江津島所家お合り

鏡 君のこころ

鏡 古今春下

徳人

さかどじしむるをさきとまのぬくまをさきとまのぬくまを

甲斐文よこしむるをさきとまのぬくまを

能因法師

かひのぬくまをさきとまのぬくまをさきとまのぬくまを

後白河院法衣をさきとまのぬくまをさきとまのぬくまを

平原頼

さきとまのぬくまをさきとまのぬくまをさきとまのぬくまを

築つみる車のりさきとまのぬくまを

実方歌也

またこののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

春の佳きはあふ 土佐門院侍製

続古今雜上

いづれもあはれいづれもあはれいづれもあはれいづれもあはれ

ま保四事院侍を

入道ま按政た大生

さるとはくちののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

春日遅く日逢玉 獨坐天龍堂と

太宰大貳を遠

玉葉春上

物宿玉のたけはくちののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

仁科も入道二品親王も是家五十と

あ合子一本

源仲光

またこののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

後高松按政家六右衛門を合

法橋顯昭

またこののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

よめと鳥を 小侍従

またこののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

堀河院侍を

権大納言を

またこののけははくしとまじりてみらるる古里のたけを

俊頼親也

東路のたごその園のよもなるたごはし我

野一守 三つ松

呼ふるまのむかひのゆかしくあはれむ

〜

この板のあやぬのむすこの垣もあ

堀川院寺時後ふ〜

藤原野仲親也

たを舟のる堀江のあはし〜

馬命ゆとりむるふ屋向のら〜

た〜

空ろの親也

さ〜

因能院寺親也

み〜

信忠社サ六に 藤原陸祐

ら〜

野一守 藤原親経

〜

白土后宮ち支俊来

俊後 陪従ま〜  
心〜  
体〜

俊後撰雜上

丹雀集書

玉一品宮...  
後冷泉院...  
位を始...  
門院内...  
...

こころ...  
後朱雀院...  
二月...  
...

二條院

玉葉雜三

上東門院

同雜三

花教...  
...

四葉太皇太后宮下

洞院...  
...

皇太后宮太后後女

中原師尚書

...

新後振雜上

あや新後

の同上

おのり同上

あしきしきとよみ侍りし

遊女祇壽

冠波ほのまおきふたあはあふひりわさ

述懐百の歌よみ侍りし月と

皇太后宮大夫俊成

あしきしきとよみ侍りし

三十三の歌よみ侍りし

従二位家隆

あしきしきとよみ侍りし

和泉式部

あしきしきとよみ侍りし

あまの車よ

元良

あしきしきとよみ侍りし

土清の院法装

あしきしきとよみ侍りし

中納言の歌よみ侍りし

衣笠の内大臣

あしきしきとよみ侍りし

上東門 院法装

統後撰雜上

氏一本統後の

とくまの首の

洞院抄政家百

お中納言家

袖の

六帖題の

侍人の

まの

たの

浄覺上人

の

中

の

の

の

の

の

の

前参議忠定

の

新後  
とよみ  
依

新後撰雜上

丹鳥集書

元良親王位付  
付

王兼恋五

右大将道經母  
宇治より鵜舟と云々

友致のやり  
俊頼親王

好忠

西が法師

かみちや様

夏は

法京猷因

船納涼と

信愛親王

いふ京院より夏月



法師

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

建保二年丙辰

中納言

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

中納言

後鳥羽院

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

中納言

後拾遺  
あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

藤原

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

地蔵

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

赤染

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

院

あまのついでにまはるるの月には村のあまのついでにまはるる

道

白雲とよそよそしく  
あはれなる秋の夕  
あはれなる秋の夕  
あはれなる秋の夕

あはれなる身の程  
あはれなる身の程  
あはれなる身の程

あはれなる人の心  
あはれなる人の心  
あはれなる人の心

あはれなる源頼家  
あはれなる源頼家  
あはれなる源頼家

あはれなるかみ  
あはれなるかみ  
あはれなるかみ

あはれなる風  
あはれなる風  
あはれなる風

あはれなる最勝  
あはれなる最勝  
あはれなる最勝

あはれなる入道  
あはれなる入道  
あはれなる入道

あはれなる入道  
あはれなる入道  
あはれなる入道

続古 秋の夕の并ふ  
光明寺入道  
前拾政元大

続古今雜上

丹波集書

たう涼風うーそよよのけのたのせり秋の夕露  
秋風歎老とるここと

惠慶法師

秋風の吹くそよそよ我くつるそよよむをみりしうき

まじいーらふん 土居院法親

まじいそよそよ友とみまじいそよよのそよそよ

建保内表秋十五そよそよ秋原 新後拾

参译雅臣

そよよのそよそよ麻のけりそよそよあそよそよ

秋あけ中ー 源家長親

新後拾遺秋上

中新後拾

そよよのそよそよ也まじいのたふあそよそよ

前攝政家うーあそよそよ

源兼氏

くそよそよのけりそよそよの秋そよそよ

おれ家のふそよ 正之位知家

あそよそよあそよそよあそよそよあそよそよ

設富院大浦ふそよ

あ中納言貞実

秋の田はあそよそよあそよそよあそよそよ

禊子内親王家あそよそよ

駒

後文味... 式子内親王

... 土清門院寺製

... 後京極按良家六百番あり

正二位季経

... 新拾遺雜上題不知

後 曉のく

後撰撰中

新拾遺雜上題不知

玉葉雜三

... 正二位季経

... 權花...

... 仁和寺入道二品親王 覚性

... 月信...

... 石...

... 建保...

中ふまゝのいづれもあつしんすすじのあはれ月新  
月二十三日のあつしんすすじのあはれ月新

続後拾遺叔

法性寺入道兼右大臣大政大臣

恩月あつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

右大臣の時のふまゝ 後法性寺入道兼右大臣大政大臣

大志あつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

大志あつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

月新のあつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

建仁二年八月十五日和歌新

土佐の内大臣

元平のあつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

建保二年丙午のあつしんすすじのあはれ月新

前中納言通

二條院のあつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

刑部卿

神武のあつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

春林のあつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

菅原孝標女

人あつしんすすじのあつしんすすじのあはれ月新

新拾人のあふま  
り月みくろく

新拾遺雜中

新拾

ころろのむねのさへに林のむねのさへに  
月影満屋とふとふと

とふとふと

あなをのさへに林のむねのさへに

建保内表百書十そ新徳款合り

八条院言合

新徳古今雜下

いささかむねのさへに林のむねのさへに

月思ねとふとふと 藤系実徳新書

いささかむねのさへに林のむねのさへに

新徳古今雜下 後ね新書

毛川老ふはちあつとんは清くもさある月の新

水上月とふと 結因法書

いささかむねのさへに林のむねのさへに

江上月とふと 従三位新書

いささかむねのさへに林のむねのさへに

雨は月とふと 皇太后太皇太后

新千載秋下

吹さらすあけの月さきほくたふと

湖を月と 源行光

いささかむねのさへに林のむねのさへに

稿有社あわりの月と

信実教也

みよりの川をたづねてふせまらふを流る月

事いしらす 惠孝法師

夏級のこの月新みよりの昔のくまのくま

大峰よき月とらん

前大徳正行

月新むのこまをたづねてふせまらふを流る月

信正行意

こころ我の心のくまのくまのくま

玉修り一侍り  
月のおく侍り  
よもふおのり  
あは出

徳古修り一侍り  
月とらん

徳古今秋上

深山月と

法橋政信

尋入らぬくみよりのくまのくまのくま

後法性入道宗圓白右大徳の時の玉とらん

かゝるくまのくまのくまのくまのくま

かゝるくまのくまのくまのくまのくま

高弁上人

わのよもかたのくまのくまのくまのくま

大僧正行

ひらりひらりひらりひらりひらりひらり

清サ納云

玉月とらん

丹鶴集書





後撰恋四

おしなごの婦もあはれなる御心  
おの月もあはれなる御心

和名式部

秋もあはれなる御心  
ふさ歌の中へ九月おき

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

二部ノ親也 元良

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

おの月もあはれなる御心

徒捨遺恋四 光明峯寺入道新撰恋四

徒捨



俊朝親王

能因法師

式子内親王

新千載雜上題不知

廿新十

嘉應二年法信の

従三位頼政

右三衛督基氏

鳥羽の

平任西親王

御門法師

保田再院は

中納言家

一品資子内親王

読後撰冬

おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大浦なるはなをいふま

紫統後  
藤式部

おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大峰の禪師のけりく停務  
さるはなをいふま

信正

おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大峰の禪師のけりく停務  
さるはなをいふま  
信正

一五

新十四九院の  
おののけのりつと  
さるはなをいふま

新十載雜上

おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大浦なるはなをいふま

おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大峰の禪師のけりく停務  
さるはなをいふま

堀河院中宮上総

おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大浦なるはなをいふま  
おののけのりつとさる松枝のけりく停務  
大峰の禪師のけりく停務  
さるはなをいふま

そは信教もそのまゝのまゝに  
日雄とつゝいふも 実方教也

たしこのいふもせむらひのまゝに  
のなる 道信教也

人まゝにまゝにまゝにまゝに  
堀河院寺時ふまゝに 堀河を

いふまゝにまゝにまゝにまゝに  
後教教也

おきり内ちもまゝにまゝに  
植梅待春まゝに  
源淨光

風雅雜上

風雅雜上

まゝにまゝにまゝにまゝに  
字まゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

信生法師

風雅雜上

俊惠法師

まゝにまゝにまゝにまゝに  
皇太后宮大夫俊也

こゝにまゝにまゝにまゝに  
久あままゝに  
清琳教也

玉後法住寺前園白  
あままゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝに

玉葉冬



新徳古今雜上たの

しるしをいふもいふふかきりていふもいふも我まの

除夜のころをいふもいふふかきりていふもいふも

みまもいふもいふふかきりていふもいふも

*[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive style, possibly representing a list or a specific record.]*

